

第14回 みんなで語ろう！ ~いなむら市長とともに 車座集会~

<テーマ型：ワークライフバランスについて>

と き	平成 25 年 11 月 30 日（土） 午前 10 時～11 時 30 分
と ころ	尼崎市女性センター・トレピエ 視聴覚室
参加者等	参加者 24 名 市長ほか関係者 9 人 合計 33 人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

2 市長のお話

ワークライフバランスとは「仕事と生活の調和」のことをいう。

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会を作っていく取組のことをいう。

このことを理解した上で、尼崎市におけるワークライフバランスの確立に向けた取組内容、内閣府調査（国）や市民意識調査（尼崎市）の結果をグラフ化した資料に基づき簡単に説明。

ワークライフハーモニーとも言われ、仕事と家庭の調和に加え趣味も楽しみましょうというものである。

市役所に勤める職員でも、公私混同はだめであるが、公私混合はすすめていくべきである。町を歩きながら、仕事としてではなく、一個人として地域の方々と一緒にイベントや清掃などの活動に参加する。市民が、どんなことを求めているかは、じっと机に向かっていても分からない。仕事を通じて、自分の生活の中でも、世の中を良くしていくことを考える必要がある。

これらのことを踏まえて、本日のテーマについて、皆さんの意見を伺いたい。

3 市民と市長との対話

<主な意見>

- ・ 仕事が忙しいだけでなく、地域活動や日常生活も忙しい。（家庭、イベント、町会など）
- ・ 「町会＝命」というぐらい忙しく過ごしている。朝起きて朝食を済ませるとすぐに飛び出し地域活動をする、夜も会合で家を空ける。そんな生活をしている。

夫に対して、「やってよ！」ではなく、たまには、夫婦で食事や遊びに出かけていく、お互い我慢・ガマンではなく協力が必要になる。

- ・ 尼崎市独自の無料職業紹介を実施されているのはとてもいいことだと思う（あま Job ステーション）。

そこで、内職ではない在宅の仕事（システムプログラムの組立てなど...）があればいいと思う。ハローワークでもぜひ取り入れてほしい。

尼崎市役所でも率先して実施してはどうか。

個人情報・データの管理などの問題はありますが、これらを考えると興味のある内容ではある。

- ・ 在宅勤務ができて、幼い子どもがいると大変だから、預かってくれるところがないと仕事に取り組めない。
- ・ シャッター通りを工夫して子どもが集まるようにできないか。
- ・ 今回の車座集会には高校生が参加しているが、これからの尼崎市の学力は？
今回のテーマとは異なるが、高校入試制度が広域化になることへの不安はあるが、尼崎市では小中の連携をしっかりと取っている。しかし、自分の学力が市外の生徒とも比較してどの程度なのかかわからないと不安があるのでそれを知ること大切。
~~ここで、参加している高校生の学年を聞き取り~~
- ・ 尼崎市独自のハローワーク(あま Job ステーション)はどこにあるのか。
出屋敷駅前のリベルの中にある。
- ・ ワークライフハーモニー、制度はあるが地域風土などによりなかなか根付かない。
男女共同の考え方については、小学生などの小さい頃から勉強してもらおうほうがいいのではないかと。ぜひ、全国に先駆けて取り組んでもらえればと思う。
- ・ 子育てについては、独身だと関係ないが、介護はみんなが関わる問題である。
先ほどの在宅ワークはいいなと感じるのでぜひ進めてほしい。
- ・ 女性だけが介護に関わるという意識は変わってきているが、まだまだ女性の負担が大きい。
- ・ 今まで、家族分働けといわれてきた男性。妻から、これからは私も働くから、あなたも働いて、もちろん家事も分担で、といわれる時代。
- ・ 市長が女性で、それも2代続いて女性市長という市はほかにない。そこを活かしてほしい。
地域で活躍されているのは女性だと思うが、トップは男性というのが多い。
- ・ 確かに、女性が増えているが、男性も地域活動に多く出てきている。
- ・ 学校でも名簿が男女混合になっている(小中学校では混合名簿 100%達成)。しかし、日常的には、そうでない名簿を使用していると聞くので、小さい頃から男女一緒だという意識付けが必要ではないかと思う。
- ・ 男女の性差が必要ときだけわかるようにすればいいのではないかと。
- ・ 共同代表制というものがある。決定するときにさまざまな意見を聞くことがあるが、男女、年齢、様々なジャンルの人から聞き、想像力を働かせることが大切である。確かに、責任分担の問題もあるので運用は難しいが...
- ・ 最近良く言われる保育ママの制度はどうなっているのか？
尼崎では待機児童が少ないので実施していない。特に認可保育所も多い。
- ・ 尼崎市には時間休暇はあるのか？
尼崎市では、時間休暇も育児休暇等もある。
- ・ 尼崎市では病児保育は実施されているのか？
市内に2箇所ある。(南武庫之荘と小中島)。新しくできる県立病院にも設置してもらうよう働きかけている。
- ・ 中小企業が大手に仕事をとられていると聞くが...
- ・ 尼崎市では、同じような実力を持っている業者では、市内業者を優先するという制度を実施する

予定であり、地元にどのような応援が必要かを考えている。

- ・ 子育てしながら働いているが、育児時間を取得し早く帰ることで、職場の職員に迷惑をかけていることを考えると、2人目、3人目を生むことが難しくなる、
- ・ 市役所では人数を減らしており、特に技術職は代わりがないので休めないという実態がある。そこで、仕事量の調整、やり方を変えることが必要となる。
- ・ 公共の領域が広がる中で、拡大する部分を行政が丸抱えするのではなく、民間主体で行政と一緒に進めていくような方法を編み出していく必要がある。
- ・ 市役所の職員が足りないという問題に対して、ただ職員を増やすだけでは、その余裕のある状態が当たり前になってしまい、そこから人が減ると結局負担を感じるようになってしまうため解決にはならない。余力に加え職員の意識の両方を考える必要がある。
- ・ シングルマザーであるが、40歳代になり仕事を探すのは大変。女同士で仕事を取り合う戦いでもある。ワークライフハーモニーが大切だという中で、自分のこともしたいのに、仕事を探すことで手一杯。

以 上